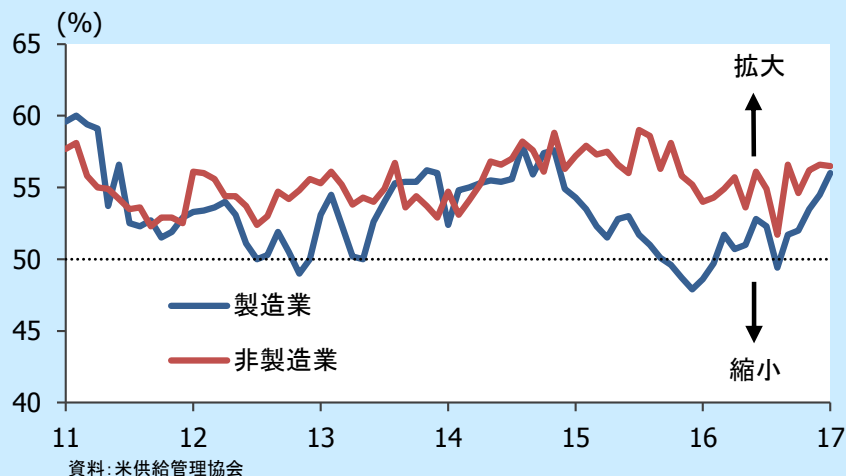


# 米国：ISM景況指数（2017年1月）

## —製造業の景況感は約2年ぶりの水準まで回復—

*MRI Daily Economic Points*  
February 6, 2017

図表1 総合指数



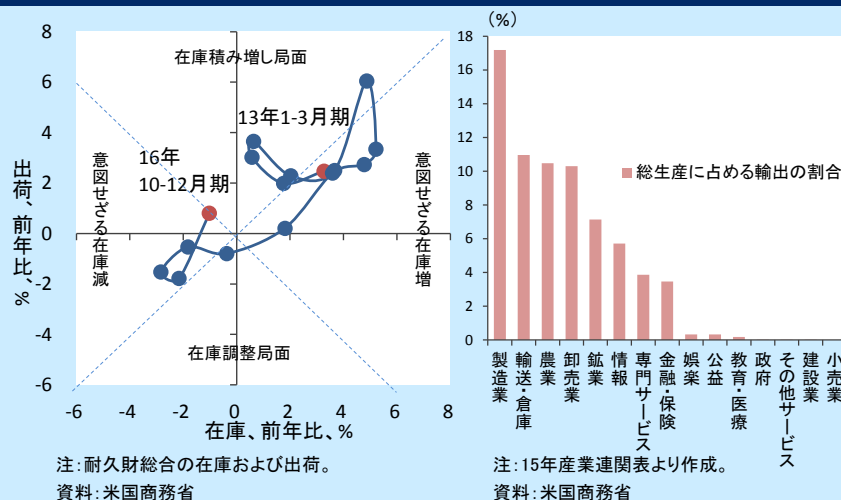
評価ポイント

### 今回の結果

- 1月のISM製造業景況指数(総合、2/1公表)は、56.0と前月(54.5)から上昇。ドル高や在庫調整による下押し圧力が緩和していることなどを背景に、製造業の景況感は、約2年ぶりに非製造業と同水準にまで回復した。
- 項目別にみると、生産(61.4)、雇用(56.1)、在庫水準(48.5)など幅広い項目で上昇した。特に、15年半ば以降、弱い動きが続いていた雇用が14年8月以来の高水準となった。新規受注(60.4)も2ヶ月連続で60を上回った。業種別では、18業種のうち12業種が50を上回り、幅広い業種で活動が拡大した。
- 1月のISM非製造業景況指数(総合、2/3日公表)は、56.5と高い水準で推移。ビジネス活動(60.3)、新規受注(58.6)、雇用(54.7)が底堅く推移した。

図表2 在庫循環図

図表3 総生産に占める輸出割合



### 基調判断と今後の流れ

- 製造業は、①海外経済の持ち直しや、②2014～15年にかけて進行したドル高の輸出押し下げ圧力の一巡、③在庫調整圧力の緩和などにより、景況感が回復。非製造業も、内需の堅調さを背景に良好な景況感が続いている。
- 先行きも、堅調な内需に支えられ、企業活動の拡大基調が続くと予想する。製造業は在庫調整局面を脱しつつあり(図表2)、今後は在庫積み増しが景況感の押し上げ要因となる。企業活動の先行指標である新規受注の改善や、減税やインフラ投資への期待も、景況感を下支えするだろう。
- 下振れ要因は、①関税引き上げの主張などトランプ新政権が保護主義化を強める中、輸入物価が上昇すれば、仕入れコストの上昇により企業マインドが悪化することがある。また、②ドル高が一段と進行すれば、輸出に下押し圧力がかかる。製造業に加え、輸送・倉庫など一部の非製造業でも輸出比率は高く(図表3)、幅広い業種に悪影響が及びうる。さらに、③トランプ新政権の政策に関する不確実性が続く場合や、④期待していたほど減税やインフラ投資が進展しない場合にも、景況感が悪化しかねない。